

倭 約は他 のため にせよ

倭約とケチ との違い

家康公は日頃よりこう言っていました。「総じて、倭素でなくては国家は治まらないものだ。上に立つ者が贅沢をすれば、下々の年貢が嵩^{かさ}んで困窮する。だが世の人は倭約を、やるべきこともしない事と勘違いして、義理まで欠いてしまうのは大いなる誤りである」と。これは倭約とケチの違いを教えたものでした。

必要になった時に 思い切り使う為に

家康公には、倭約にまつわる逸話が数多くあります。例えば、三河時代の事。夏はいつも麦飯でしたが、ある時近臣が茶碗の底に白米を入れ上に少しだけ麦をのせて出しました。すると家康公は言いました。「今、天下は戦争の世となって、上も下も寝食を安らぐことはない。私は我が身の入費も節約し、軍国の費用に充てようとしているのだ」と。家康公の倭約は、必要な時に使うためなのです。実際に豊臣秀次切腹事件の時、細川忠興を救うためボンと金100枚を提供していますが、それは21年前から貯えていたものだったのです。

人を愛す理、 倭約の中にあり

『論語』には、こんな一節があります。「大国を治めるには、第一に万事を慎重に行い、人民の信頼を失わぬようにしなくてはならぬ。第二に、一国の経済は節約もするが、つかうべきところには金を使い、人民を心から愛さなくてはならぬ。第三に、人民を公役に使う場合は、農耕その他、民衆の仕事にさしつかえない時期を選ばねばならぬ」と。また江戸中期の思想家・石田梅岩は、倭約の中に「人を愛するの理、備われり」と指摘しています。利己でなく利他のためにする。それが倭約の真実といえるのかもしれませんが。